

## (5) その他

### 1) 補習授業

工学部は今年度も補習授業として下記のように実施した。

#### ・補習教育:

本年度は、新入生ガイダンスの期間に全新生に対し物理・化学・数学の基礎学力テストを実施し、それらの結果に基づいて、問題がありそうな学生、およびさらにこれらの科目を学びたいという学生に対して物理・化学・数学の補習授業を実施した。

補習授業は前学期・後学期に行った。とくに、昨年度の物理と化学については、後学期の放送大学の講義を利用したが、本年度は早い時期での補習授業の必要性があると考え、両科目は前期に開講した。

物理と化学の補習授業は、非常勤講師による講義と演習を週 1 回のペースで 5 月から夏休みまでの間に 10 回実施した。最初の受講者は物理で 23 名、化学で 15 名であったが、最終的には物理で 5 名、化学で 5 名という結果であった。したがって、次年度はガイダンスを徹底して継続的な受講を指導することが必要である。

数学の補習授業は、前学期・後学期とも新生を対象に実施した。講師 1 名に学生 5 名以内のクラスを設け、個々の学生が履修中の数学科目について理解不十分の項目を講師に質問し、講師が個別に回答、解説する形式で補習授業を行った。述べ 41 名の受講者があり(参加は学生の自由意志)、前期 6 コマ・後期 3 コマの補習クラスを開講した。講師は工学基礎教育センターの教員 4 名とものづくり創造融合工学教育事業による事業担当教員 2 名で担当した。さらに添削コースも開設し、26 名程度に添削教育を行った。

#### ・基礎解析(留学生科目):

前学期と後学期でそれぞれ留学生を対象に開講した。前期は 8 名、後期は 0 名の受講者があった。ほぼマンツーマンに近い形で個々の学生の苦手とする数学科目の内容について、講師による丁寧な解説と問題演習の反復により、学生の理解の促進を図った。また、数学教育に加えて、プレゼンテーション演習を授業に組み入れることで、留学生の日本語コミュニケーション能力の向上も目指した。

### 2) 成績表の保護者への送付

平成 12 年度(2000 年度)から開始した工学部の卒業研究着手資格者を除く学部生全員を対象とした成績表送付は、成績に関する問い合わせや保護者から継続を望む多くの意見が寄せられたこともあるが、成績表送付により学生の成績を保護者に定期的に知らせることが重要であることの認識が全学的に広まったこともあり、昨年度に引き続き、5 月に前学期までの成績送付を実施した。

平成 21 年度(2009 年度)の送付内容は、2~3 年生、4 年生の卒研未着手者には、学部長挨拶状、工学部広報誌「かけはし」、自然科学研究科だより、成績通知表、単位修得に関する説明資料やアンケート調査等とし、入学直後の 1 年生の保護者及び休学者、4 年生の卒研着手者には学部長挨拶状と工学部広報誌「かけはし」、自然科学研究科だよりを送付した。また、単位取得状況が著しく悪い学生は別途勧告書を同封し、保護者の呼び出し等をおこなった。さらに、1 年生以外の保護者にはアンケート用紙による簡単な調査も行った。送付数は 2,459 部であった。

アンケート調査は昨年同様に成績表送付、広報誌「かけはし」、工学部に対する保護者の意見や要望等について自由に書いてもらうことにした。表 4 にアンケートの集計結果を示すが、回答数は 22 通であった。また、自由な意見の例を表 5 に示すが、成績表の送付が、学生の単位習得や進路変更など保護者には有益な情報になっていることが明らかとなった。

退学者についてみると、平成 14 年度は 33 名、平成 15 年度は 56 名、平成 16 年度は 51 名、平成 17 年度は 53 名、さらに平成 18 年度は 45 名、平成 19 年度は 40 名、平成 20 年度は 47 名であり、大きな変化はなかった。しかしながら、卒業研究着手資格が工学部全体で 7 割少々であることを考えると前期の早い時期の成績表送付のみでなく、後期にも成績表送付を行って保護者への学生成績の周知を行うこと、さらに系学科ごとできめ細かな学生指導や対応が必要であることなどがわかった。

表4 21年度 成績送付に関するアンケート集計結果<回答数>

	2年	3年	4年	不明	計
物質生命					0
マテリアル	4				4
機械	4	1			5
社会環境	1	2			3
建築	1				1
情報電気電子	4	3			7
(電気システム)					0
(数理情報)					0
数理工					0
無記名				2	2
合計	14	6	0	2	22

表5 成績送付に関する意見(送付の継続, 送付内容の問題等)

- ・もう少し早く送って欲しい、継続は必要、本人へのフィードバックに使用したい。
- ・1年間の様子が分かって助かる。
- ・履修手引きなど、もう少し詳細な資料が欲しい。
- ・可能であれば、リアルタイムでの出席状況等の確認をしたい。
- ・教養科目と専門科目の項目の記載表現が異なるため、分かりづらい。
- ・前学期・後学期共に送付希望。
- ・送付時期、回数については現行のままでよい。
- ・就職状況について、企業名等詳細に記載して欲しい。
- ・単位修得をグラフ表示にして欲しい(必修単位と修得単位の割合)